# いちご病害虫情報第8号（1月）

平成24年1月20日
栃木県農業環境指導センター

単位：%

| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 | アザミウマ類（花） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 6 | 4 | 13 | 11 | 3 | 51 | 17 | 0 | 6 | 8 |
| | 平均値 | 8.0 | 5.3 | 17.3 | 14.7 | 4.0 | 68.0 | 22.7 | 0.0 | 8.0 | 33.3 |
| | 平年値 | 3.8 | 4.3 | 11.4 | 3.1 | 4.2 | 33.0 | 56.3 | 0.0 | 0.0 | 26.9 |
| | （平均値／平年値）×100 | 210.5 | 123.3 | 151.8 | 474.2 | 95.2 | 206.1 | 40.3 | － | － | 123.8 |
| | 発生程度 | 多 | 平年並 | やや多 | 多 | 平年並 | 多 | やや少 | 少 | － | 前年並 |
| 株率 | 発生株数 | 2 | 1 | 16 | 3 | 3 | 592 | 22 | 0 | 13 | 19 |
| | 平均値 | 0.1 | 0.1 | 0.9 | 0.2 | 0.2 | 31.6 | 1.2 | 0.0 | 0.7 | 0.8 |
| | 平年値 | 0.2 | 0.2 | 0.6 | 0.1 | 0.4 | 9.8 | 12.1 | 0.0 | 0.0 | 0.6 |
| | （平均値／平年値）×100 | 50.0 | 50.0 | 150.0 | 200.0 | 50.0 | 322.4 | 9.9 | － | － | 133.3 |
| | 発生程度 | やや少 | やや少 | やや多 | 多 | やや少 | 多 | 少 | 少 | － | 前年並 |
| 概評 | | やや多 | 平年並 | やや多 | 多 | 平年並 | 多 | やや少 | 少 | やや多 | |

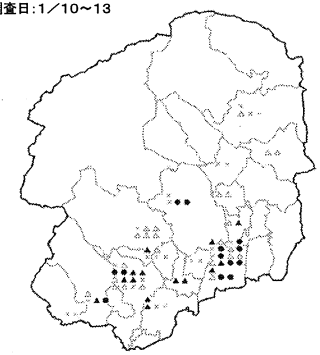
備考

総調査ほ場数：75か所　（ｱｻﾞﾐｳﾏ類（花）調査ほ場数：24か所）
総調査株数：1,875株　（ｱｻﾞﾐｳﾏ類（花）総調査花数：2,400花）
（調査株数：1ほ場25株（ｱｻﾞﾐｳﾏ類（花）調査花数：1ほ場100花））
※アザミウマ類（花）の平年値は過去１年分のみの値

○今月の病害虫発生状況○

・ハダニ類の多発が続いており、葉の表面のかすり状の被害（写真1）も見られます。
・うどんこ病の発生ほ場率が平年を上回りました。また、灰色かび病（写真2）も見られます。

①ハダニ類発生状況（本ぼ）
調査日：1／10～13



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率（%） | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

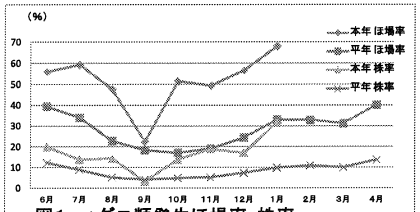
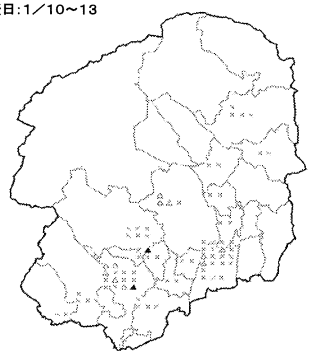



図1　ハダニ類発生ほ場率・株率

②うどんこ病発生状況（本ぼ）
調査日：1／10～13



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率（%） | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

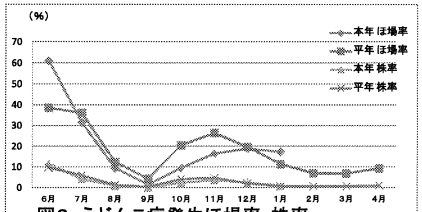



図2　うどんこ病発生ほ場率・株率

写真1　ハダニ類被害葉

写真2　灰色かび病

○今月の技術情報（技術指導班）○（1月）

昨年12月中旬から晴天日が多いため、病害は全般に少ないですが、うどんこ病の発生がやや多く、灰色かび病の発生も散見されます。また、害虫ではハダニ類の発生が多い状態が続いています。

2月以降は降水量が増え、多湿条件になりやすいこと、気温が上昇することなどから、病害虫が多発する恐れがあります。下葉かきなどの管理作業、ハウスの適正な温度管理や換気等により発生しにくい条件にすると共に、早めの薬剤防除等により被害を防止して下さい。

なお、温湿度管理を良くすることは、受粉用ミツバチの群を長く保つことにもつながります。

また、ハウスビニルの隙間はできるだけ無くすようにして保温効率を高め、省エネ化に努めましょう。

# いちご病害虫情報第9号（2月）

平成24年2月17日
栃木県農業環境指導センター

| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 6 | 15 | 8 | 4 | 2 | 53 | 20 | 4 | 17 |
| | 平均値 | 8.3 | 20.8 | 11.1 | 5.6 | 2.8 | 73.6 | 27.8 | 5.6 | 23.6 |
| | 平年値 | 3.5 | 7.6 | 6.2 | 2.1 | 4.1 | 36.6 | 53.8 | 0.0 | 1.4 |
| | （平均値／平年値）×100 | 237.1 | 273.7 | 179.0 | 266.7 | 68.3 | 201.1 | 51.7 | － | 1685.7 |
| | 発生程度 | 多 | 多 | やや多 | 多 | 平年並 | 多 | やや少 | － | 多 |
| 株率 | 発生株数 | 1 | 19 | 17 | 4 | 8 | 478 | 35 | 5 | 35 |
| | 平均値 | 0.1 | 1.1 | 0.9 | 0.2 | 0.4 | 26.6 | 1.9 | 0.3 | 1.9 |
| | 平年値 | 0.1 | 0.4 | 0.4 | 0.0 | 0.5 | 11.8 | 13.7 | 0.0 | 0.2 |
| | （平均値／平年値）×100 | 100.0 | 275.0 | 225.0 | － | 80.0 | 225.4 | 13.9 | － | 950.0 |
| | 発生程度 | 平年並 | 多 | 多 | － | 平年並 | 多 | 少 | － | 多 |
| 概評 | | やや多 | 多 | やや多 | 多 | 平年並 | 多 | やや少 | 平年並 | 多 |

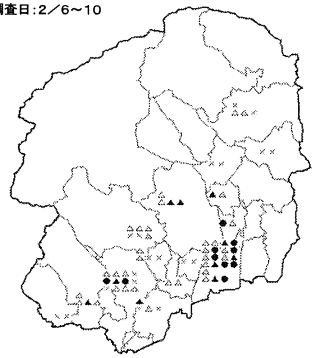
備考

総調査ほ場数：72か所
総調査株数：1,800株
（調査株数：1ほ場25株）
※アザミウマ類の平年値は前年値

○今月の病害虫発生状況○

・灰色かび病の発生が多くなっています。また、うどんこ病の果実被害も増加しており注意が必要です（写真1）。
・ハダニ類の発生は引き続き多くなっています。アザミウマ類も多く、春先の被害果実発生に注意が必要です（写真2）。

①ハダニ類発生状況（本ぼ）
調査日：2／6～10



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率（%） | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

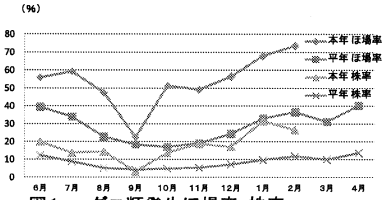
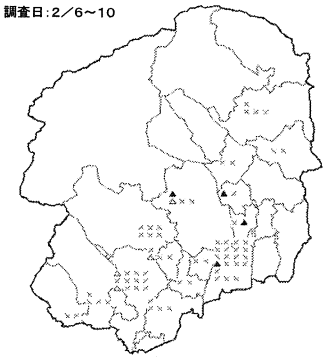



図1　ハダニ類発生ほ場率・株率

②うどんこ病発生状況（本ぼ）
調査日：2／6～10



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率（%） | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

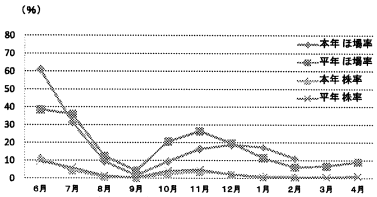



図2　うどんこ病発生ほ場率・株率

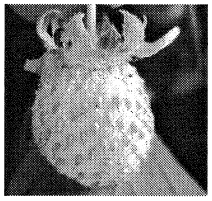


写真1　うどんこ病被害果実

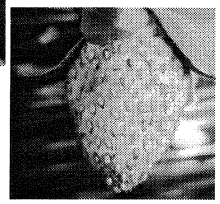


写真2　アザミウマ類被害果実

○今月の技術情報（技術指導班）○（2月）

・24年産も後半に入り、収穫量の増加とともに、管理作業が遅れがちになる時期でもありますが、現在うどんこ病の発生がやや多く、灰色かび病も増加傾向にあります。また、害虫ではハダニ類の発生が継続しており、アザミウマ類も増加しつつあります。3月以降は気温が上昇し、曇雨天日が増えることも予想されるため、これら病害虫が多発することが懸念されます。
・適正な温度・換気・かん水などの管理とあわせ、こまめにいちごの株を観察し、病害虫の早期発見や早めの薬剤防除により、被害の軽減に努めましょう。また、薬剤が葉裏にもよくかかるように、古葉等の整理を行うことも重要です。
・今後は日射も強まるので、果実の傷みなど、品質の低下にも注意しましょう。

# いちご病害虫情報第10号（3月）

平成24年3月16日
栃木県農業環境指導センター

| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 4 | 24 | 7 | 5 | 4 | 47 | 15 | 0 | 26 |
| | 平均値 | 5.6 | 33.3 | 9.7 | 6.9 | 5.6 | 65.3 | 20.8 | 0.0 | 36.1 |
| | 平年値 | 3.1 | 13.5 | 6.6 | 3.3 | 2.6 | 35.0 | 56.0 | 0.0 | 13.5 |
| | (平均値／平年値)×100 | 180.6 | 246.7 | 147.0 | 209.1 | 215.4 | 186.6 | 37.1 | － | 267.4 |
| | 発生程度 | 多 | 多 | やや多 | 多 | 多 | 多 | やや少 | 少 | 多 |
| 株率 | 発生株数 | 0 | 91 | 9 | 3 | 15 | 511 | 32 | 0 | 112 |
| | 平均値 | 0.0 | 5.1 | 0.5 | 0.2 | 0.8 | 28.4 | 1.8 | 0.0 | 6.2 |
| | 平年値 | 0.2 | 1.0 | 0.4 | 0.1 | 0.5 | 11.4 | 17.3 | 0.0 | 1.6 |
| | (平均値／平年値)×100 | 0.0 | 510.0 | 125.0 | 200.0 | 160.0 | 249.1 | 10.4 | － | 387.5 |
| | 発生程度 | 少 | 多 | 平年並 | 多 | やや多 | 多 | 少 | 少 | 多 |
| 概評 | | 平年並 | 多 | やや多 | 多 | 多 | 多 | やや少 | 少 | 多 |

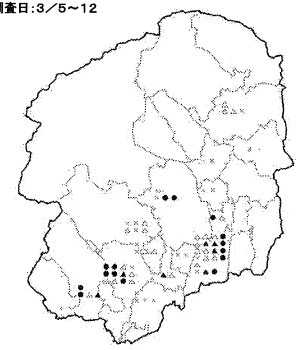
備考

総調査ほ場数：72か所
総調査株数：1,800株
（調査株数：1ほ場25株）
※アザミウマ類の平年値は前年値

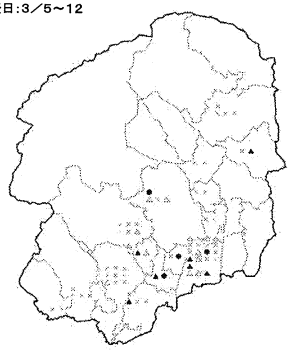
○今月の病害虫発生状況○

・ハダニ類の多発が続いており、ハダニの吐く糸でクモの巣状になっている株も見られました（写真1）。
・灰色かび病の発生しているほ場も多く（図2）、古葉の葉柄、収穫後の果梗、葉先の枯れた部分や果実にも発生が見られました（写真2）。

①ハダニ類発生状況（本ぼ）
調査日：3／5～12



②灰色かび病発生状況（本ぼ）
調査日：3／5～12



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

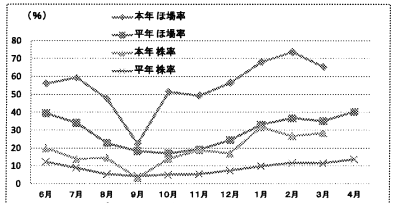



図1 ハダニ類発生ほ場率・株率

| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

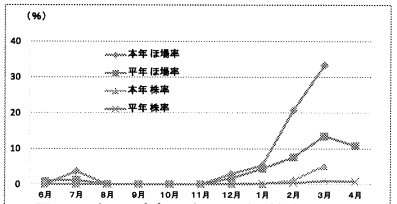



図2 灰色かび病発生ほ場率・株率

写真1 ハダニ類が多発しクモの巣状となった株

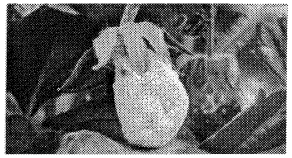


写真2 果実に発生した灰色かび病

○今月の技術情報（技術指導班）○（3月）

・例年にない低温と天候不順の影響により、いちごの生育は厳寒期からの草勢回復が遅れ気味の状況です。病害では灰色かび病の発生がやや目立ち、また害虫ではアザミウマ類の発生が多くなっています。
・今後は天候が変わりやすくなり、雨天日が多くなると思われます。降水後は高温多湿となり、果実の傷みや、灰色かび病が多発しやすくなります。また気温の上昇に伴い、ハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類等の害虫の多発も懸念されますので、早めの防除により被害の軽減に努めましょう。
・3月からは親株の定植時期となりますが、親株は病害虫の発生が無いかよく確認して定植しましょう。活着後はハダニ類などの発生にも注意が必要です。不要になった下葉をかき取るなど、薬剤が葉裏にもよくかかるようにすることが必要です。

# いちご病害虫情報第11号（4月）

平成24年4月19日
栃木県農業環境指導センター

| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 2 | 22 | 8 | 15 | 10 | 57 | 16 | 0 | 46 |
| | 平均値 | 2.4 | 26.5 | 9.6 | 18.1 | 12.0 | 68.7 | 19.3 | 0.0 | 55.4 |
| | 平年値 | 0.0 | 10.8 | 7.9 | 1.0 | 4.9 | 46.0 | 65.1 | 0.2 | 9.3 |
| | (平均値／平年値)×100 | － | 245.4 | 121.5 | 1810.0 | 244.9 | 149.3 | 29.6 | 0.0 | 595.7 |
| | 発生程度 | － | 多 | 平年並 | 多 | 多 | やや多 | やや少 | 少 | 多 |
| 株率 | 発生株数 | 0 | 36 | 13 | 12 | 22 | 755 | 31 | 0 | 152 |
| | 平均値 | 0.0 | 1.7 | 0.6 | 0.6 | 1.1 | 36.4 | 1.5 | 0.0 | 7.3 |
| | 平年値 | 0.0 | 0.8 | 0.8 | 0.0 | 0.7 | 15.8 | 21.0 | 0.0 | 1.5 |
| | (平均値／平年値)×100 | － | 212.5 | 75.0 | － | 157.1 | 230.4 | 7.1 | － | 486.7 |
| | 発生程度 | 少 | 多 | 平年並 | － | やや多 | 多 | 少 | 少 | 多 |
| 概評 | | 平年並 | 多 | 平年並 | 多 | 多 | やや多 | やや少 | 少 | 多 |

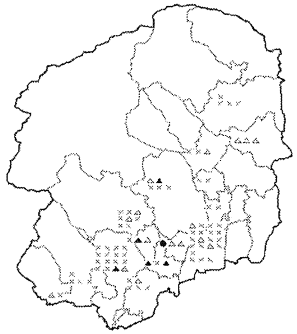
備考

総調査ほ場数：83か所
総調査株数：2,075株
（調査株数：1ほ場25株）
※アザミウマ類の平年値は前年値

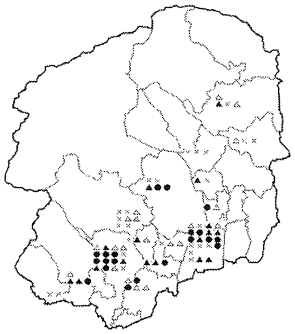
○今月の病害虫発生状況○

・灰色かび病が多く発生しています。
・株元など薬剤のかかりにくい部位を中心にアブラムシ類が多く発生しています（写真1）。
・ハダニは発生は継続しており、高密度ほ場では果実表面の被害も見られます（写真2）。
・飛び込みによるアザミウマ類の多発が散見されます。

①灰色かび病発生状況（本ぼ）
調査日：4／6～16



②ハダニ類発生状況（本ぼ）
調査日：4／6～16



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

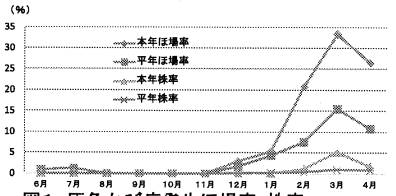



図1 灰色かび病発生ほ場率・株率

| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

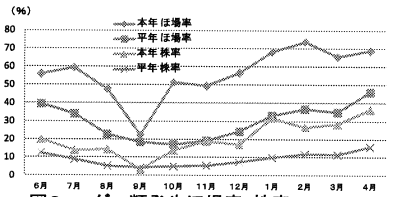



図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

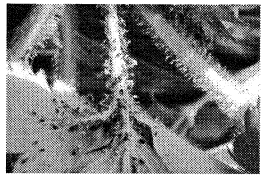


写真1 葉柄に密生したワタアブラムシ

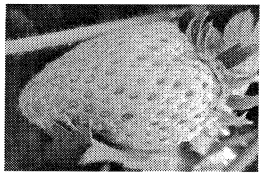


写真2 ハダニ高密度時に見られた果実の被害

○今月の技術情報（技術指導班）○（4月）

・本年のいちごは、例年にない天候不順により生育の停滞が続いていましたが、3月下旬以降の日照時間の増加と平均気温の上昇により、生育が回復してきています。
　しかし、数日ごとの降雨により温湿度の変化が大きいため、果実の傷みや灰色かび病の発生が散見されます。また、害虫ではハダニ、アザミウマ類の発生が多く、アブラムシ類も増加傾向にあります。ハウス内の適正な温湿度管理、下葉かきや葉裏にもよくかかる薬剤散布などを行い、最後まで良好な生育を保ち、品質の良いいちごの収穫に努めましょう。
・次年産の作柄安定のためには良苗の確保が重要です。まずは親株から順調にランナーを発生させる必要がありますので、親株ハウスの温度やかん水管理を徹底するとともに、うどんこ病やハダニ類など病害虫の発生にも注意が必要です。

# いちご病害虫情報第12号（5月）

平成24年5月25日
栃木県農業環境指導センター

## ＜平成24年産いちご主要病害虫の発生経過＞

平成24年産のいちごも終盤ですが、本年も様々な病害虫の被害が見られました。本年産の反省を活かし、今後は更なる被害の低減に努めましょう。

・炭疽病　は7月中旬の高温時より発生が増加し、8、9月にかけ多発しました（図1）。発生してからの防除は困難なので、発生前から定期的な予防散布を行い、水の跳ね返りがないかん水を行うなど、発病しにくい管理を実施しましょう。

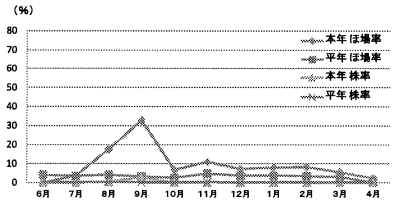


図1　炭疽病発生ほ場率・株率

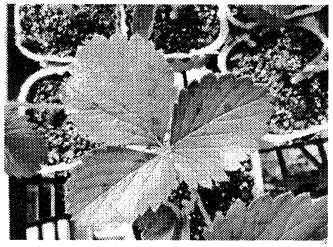


写真1　炭疽病の病斑

・うどんこ病　は6、7月と10月以降に発生が増加しました（図2）。昨年5、6月は日照時間が少なく、うどんこ病発生の一因になったと考えられます。比較的低温性の病害のため、夏期の高温時には発生が減少しますが、この時期にも予防散布を継続することで、秋以降の発生が抑えられます。

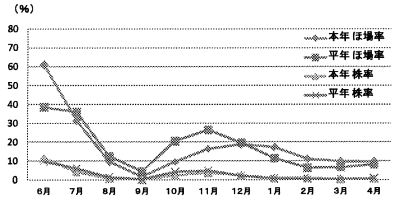


図2　うどんこ病発生ほ場率・株率

写真2　葉に発生したうどんこ病

・灰色かび病　は1月の降雪をきっかけに発生が増加しましたが、4月以降に換気量が増加すると減少しました。低温多湿が発生を助長しますので、しっかりした温湿度管理と予防散布により発生を防ぎましょう（図3）。

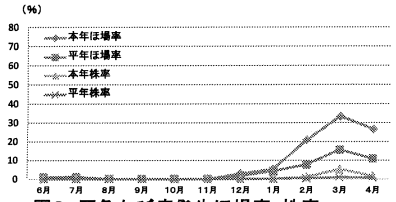


図3　灰色かび病発生ほ場率・株率

写真3　灰色かび病に感染した果実

・害虫ではアブラムシ類　は年内に、アザミウマ類　は年明けから気温上昇と共に増加しました（図4，5）。いずれも早期発見、早期防除により多発を防ぐこと、害虫全般に言えることですが、葉裏や株の内部など薬剤のかけ残しが無いように丁寧な散布を心掛けることが重要です。

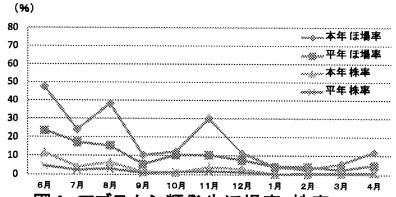


図4　アブラムシ類発生ほ場率・株率

写真4　葉柄に寄生したワタアブラムシ

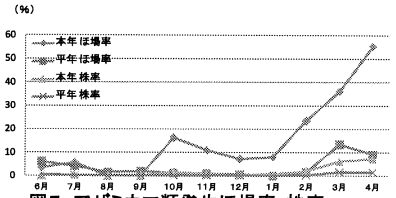


図5　アザミウマ類発生ほ場率・株率

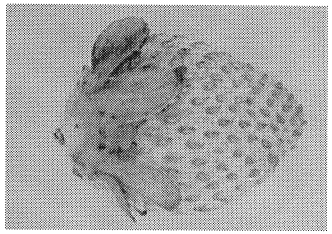


写真5　アザミウマ類による被害果実

・ハダニ類　についてはほぼ年間を通して発生が見られますが、薬剤に対する感受性は低下の傾向にあり、防除が難しくなっています（図6）。気門封鎖剤や天敵製剤を上手に活用し、被害を抑制しましょう。

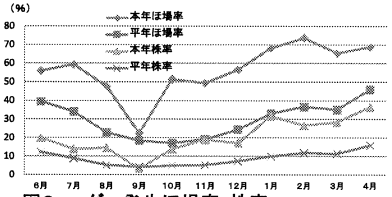


図6　ハダニ発生ほ場率・株率

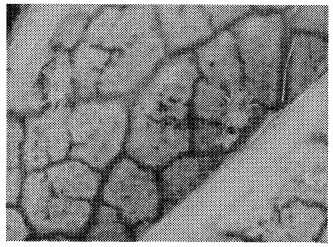


写真6　葉裏に寄生するナミハダニ

・いちご本ぽで発生する病害虫は、育苗床から持ち込まれている場合が多いようです。したがって、本ぽでの病害虫の発生は、育苗期の管理に大きく影響されると言えます。今後は親株～育苗の時期に入りますが、親株初期から防除を徹底し、育苗床・本ぽに病害虫を持ち込まないように心掛けましょう。

（技術指導班情報提供）

## ◎化学農薬に頼らない、いちごのハダニ類の防除対策

平成２４年産いちごでは、ハダニ類に対する化学農薬の防除効果の低下が目立ち、各地でハダニ類が抑えきれずに大きな問題となりました（写真１，２）。それに伴い、化学農薬だけに頼らないハダニ類防除技術が注目されています。そこで、抵抗性が発達しにくい「気門封鎖剤」と「天敵カブリダニ類」の２つの防除手法について、改めて活用のコツと注意点を確認し、来シーズンの防除に活かしましょう。

**＜２つの手法共通の長所＞**
- **抵抗性が発達しにくい**
- **使用回数に制限がない**
- **人間やミツバチに悪影響がほとんどない**

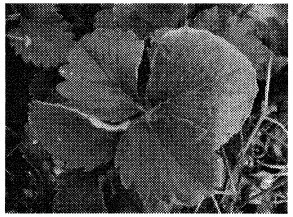
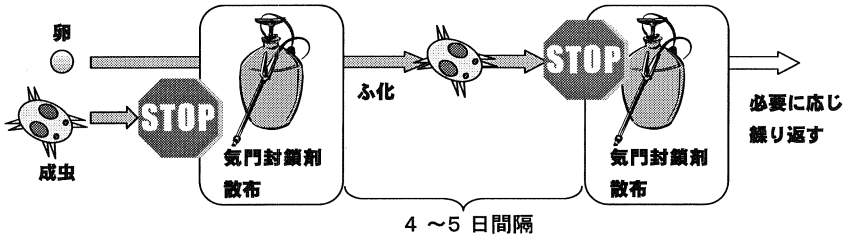


写真１．ハダニ寄生葉

写真２．ナミハダニの群れ

**①気門封鎖剤（粘着くん液剤、ムシラップ、エコピタ液剤、アカリタッチなど）**

**＜活用のコツと注意点＞**
- ハダニ類にかからなければ効果は無いため、葉裏のハダニ類を洗い流すように散布しましょう。
- 育苗期～定植直後はハダニ防除の最重要期です。葉数が少ないためハダニ類に薬液がかかり易く、さらに果実の傷みを心配する必要もありません。
- 気門封鎖剤は散布翌日までに効果が表れます。葉裏のハダニ類をつついて効果を確認しましょう。
- ハダニが見えていなくても、開花期までこまめに予防的散布を行うことが有効です。
- 卵には効果が無いため、１回だけの散布では卵が生き残ってしまいます。４～５日間隔で２～３回連続で散布することで防除効果が得られます（※ナミハダニの１世代は２５℃で約１０日）。




- 他薬剤との混用は、薬害や殺虫効果が低下する場合があるため、注意が必要です。
- 果実や葉の傷みを防ぐため、高温時や乾きにくい雨天日の散布は避けましょう。

**②天敵カブリダニ類**

**＜活用のコツと注意点＞**

*放飼する前に・・・*
- 放飼は無～少発生で行うことが成功の秘訣です。ハダニ類多発生時には必ず、カブリダニ類に影響の小さい薬剤や、気門封鎖剤を散布して、ハダニ類の密度を減らしてから放飼しましょう。
- 放飼前にあらかじめ葉かきを行い、古葉のハダニ類を除去しておきましょう。カブリダニ類放飼直後の葉かきは、増殖前のカブリダニ類をほ場から持ち出すことになります。
- カブリダニ類放飼後には、病害虫に対する防除薬剤の使用が大きく制限されます。病害虫の防除は、できるだけ放飼前にしておきましょう。特に、一部の薬剤はカブリダニ類等の天敵への影響が数か月持続するため、育苗中から散布薬剤の選択には注意しましょう。

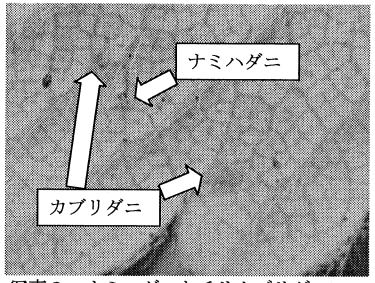


写真３．ナミハダニとチリカブリダニ

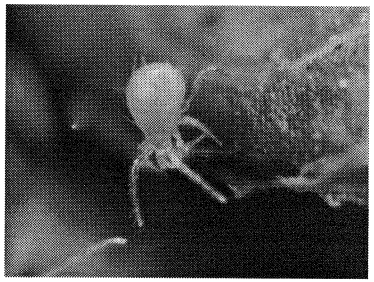


写真４．チリカブリダニ成虫

*放飼にあたって・・・*
- 定植後、ハダニが増殖する前に放飼することで、安定した効果が見込めます。ただし、開花が早くアザミウマ類の発生が多いほ場では、アザミウマ類の防除薬剤の選択に注意しましょう。
- ミヤコカブリダニ（スパイカルプラス、スパイカルＥＸ）は、花粉などを餌にして増殖できるため、ハダニ類発生前からの予防的放飼による“待ち伏せ”が有効です。
- チリカブリダニ（スパイデックス、カブリダニＰＰなど）はミヤコカブリダニより速効的ですが、ハダニ類がいないと定着性が劣ります。ハダニ類発生後の放飼や追加放飼により適しています。
- ハダニ類発生株周辺や、暖房機周りなどハウス内の発生し易い場所への重点放飼が効果的です。
- カブリダニ類放飼後もハダニ類の発生が継続するときには、追加放飼を行うことで、より安定した効果が得られ、防除の成功率が大きく上がります。
- 放飼後も、安心せずに定期的に葉裏を観察して、カブリダニ類の定着と増殖を確認しましょう。チリカブリダニはオレンジ色～赤で丸く、ミヤコカブリダニは透明～薄橙色でやや平べったい形です。
- カブリダニ類に影響のある薬剤の使用や、長時間連続した硫黄くん煙は、カブリダニ類の定着を阻害することもあるため、放飼初期の使用には注意しましょう。
- ①の気門封鎖剤やＩＧＲ剤など、カブリダニへの影響が比較的小さい薬剤であっても、カブリダニ類の定着と増殖に悪影響を及ぼすことがあるため、放飼直後の薬剤散布はできるだけ避けましょう。
- ハダニ類がやや多い場合には、防除効果が実感できるようになるまで月単位の時間がかかります。カブリダニ類が定着しているかこまめに確認しながら、効果が表れるまで辛抱強く待ちましょう。

# いちご病害虫情報第1号（6月）

平成24年6月22日
栃木県農業環境指導センター

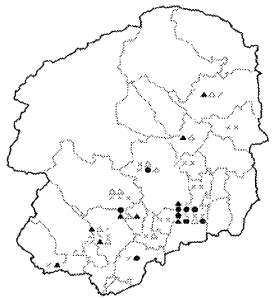
| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 3 | 0 | 32 | 0 | 17 | 42 | 17 | 0 | 1 |
| | 平均値 | 5.1 | 0.0 | 54.2 | 0.0 | 28.8 | 71.2 | 28.8 | 0.0 | 1.7 |
| | 平年値 | 1.3 | 0.9 | 39.8 | 0.9 | 26.4 | 45.0 | 52.1 | 0.2 | 4.2 |
| | (平均値／平年値)×100 | 392.3 | 0.0 | 136.2 | 0.0 | 109.1 | 158.2 | 55.3 | 0.0 | 40.5 |
| | 発生程度 | 多 | 少 | 平年並 | 少 | 平年並 | やや多 | やや少 | 少 | やや少 |
| 株率 | 発生株数 | 1 | 0 | 258 | 0 | 83 | 550 | 89 | 0 | 1 |
| | 平均値 | 0.0 | 0.0 | 11.2 | 0.0 | 3.6 | 23.9 | 3.9 | 0.0 | 0.0 |
| | 平年値 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 0.0 | 5.3 | 14.3 | 11.9 | 0.0 | 0.2 |
| | (平均値／平年値)×100 | – | – | 123.1 | – | 67.9 | 167.1 | 32.8 | – | 0.0 |
| | 発生程度 | 少 | 少 | 平年並 | 少 | 平年並 | やや多 | やや少 | 少 | 少 |
| 概評 | | 平年並 | 少 | 平年並 | 少 | 平年並 | やや多 | やや少 | 少 | やや少 |

備考

総調査ほ場数：59か所
総調査株数：2,300株
（調査株数：1ほ場25株
ただし、空中採苗方式は50株）

○今月の病害虫発生状況○
・6月は親株を対象に調査しました。
・いくつかのほ場で炭疽病が散見されています。
・うどんこ病は親株、子苗で発生見られます。
・全般にハダニ類の発生が見られ、高密度ほ場では子苗への寄生が認められます。
※病害虫を本ぼへ持ち込まないためには、親株床での防除を徹底することが重要です。

①うどんこ病発生状況(親株床)
調査日:6／11～18



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

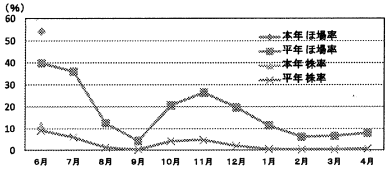
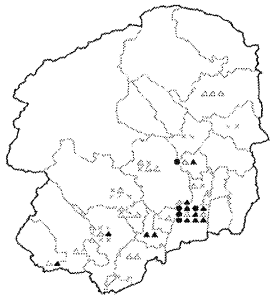



図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

②ハダニ類発生状況(親株床)
調査日:6／11～18



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

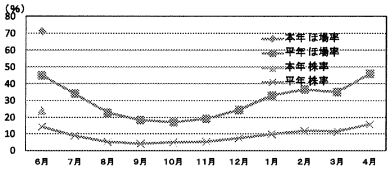



図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

写真1 うどんこ病の病徴(親株)

写真2 炭疽病の病徴(親株)

○今月の技術情報(技術指導班)○（6月）

・親株からのランナー発生は、春先までの低温や、その後の天候不順の影響によりやや遅れています。こまめなかん水や子苗の誘引等により、大きさの揃った良苗を多めに確保できるようにし、梅雨明けまでに仮植・活着させるように作業をすすめましょう。

・親株床でハダニ類、うどんこ病の発生が見られます。また、アブラムシ類、コナジラミ類の発生も散見されます。防除の際は葉裏にも薬剤がよくかかるよう、丁寧な散布を心がけると共に、気門封鎖剤の利用、下葉かき等の管理を適切に行いましょう。

またハダニ類については、育苗期から天敵製剤を活用しましょう。

・炭疽病の発生はまだ少ないですが、ここ数年、育苗期の発生が多い傾向にあります。昨年も7月の高温で発生が増加したので、ほ場観察と発生予察情報を参考にし、予防散布を徹底するとともに、泥はねさせないかん水や、ハウス内への風雨の吹き込み防止など、普段から炭疽病を意識した管理を行いましょう。

# いちご病害虫情報第2号（7月）

平成24年7月20日
栃木県農業環境指導センター

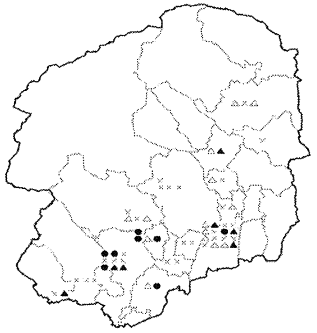
| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 3 | 2 | 29 | 2 | 13 | 28 | 9 | 0 | 6 |
| | 平均値 | 5.2 | 3.4 | 50.0 | 3.4 | 22.4 | 48.3 | 15.5 | 0.0 | 10.3 |
| | 平年値 | 3.0 | 1.2 | 36.6 | 0.3 | 19.4 | 38.8 | 44.1 | 0.5 | 3.4 |
| | (平均値／平年値)×100 | 173.3 | 283.3 | 136.6 | 1133.3 | 115.5 | 124.5 | 35.1 | 0.0 | 302.9 |
| | 発生程度 | やや多 | 多 | 平年並 | 多 | 平年並 | 平年並 | やや少 | 少 | 多 |
| 株率 | 発生株数 | 0 | 2 | 215 | 0 | 71 | 254 | 20 | 0 | 8 |
| | 平均値 | 0.0 | 0.1 | 10.9 | 0.0 | 3.6 | 12.9 | 1.0 | 0.0 | 0.4 |
| | 平年値 | 0.1 | 0.0 | 5.9 | 0.0 | 2.8 | 9.8 | 7.7 | 0.0 | 0.2 |
| | (平均値／平年値)×100 | 0.0 | – | 184.7 | – | 128.6 | 131.6 | 13.0 | – | 200.0 |
| | 発生程度 | 少 | – | 多 | 少 | 平年並 | 平年並 | 少 | 少 | 多 |
| 概評 | | 平年並 | 平年並 | やや多 | 平年並 | 平年並 | 平年並 | やや少 | 少 | 多 |

備考

総調査ほ場数：58か所
総調査株数：1,975株
（調査株数：1ほ場25株
ただし、空中採苗方式は50株）
親株、苗調査

○今月の病害虫発生状況○
・一部でうどんこ病の多発ほ場が見られます。
・一部で萎黄病・炭疽病の発生が見られます。

①うどんこ病発生状況(親株、苗)
調査日:7／4, 5, 9, 10



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

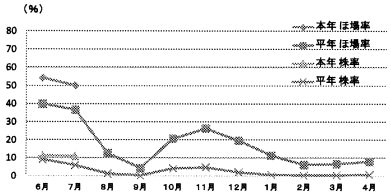
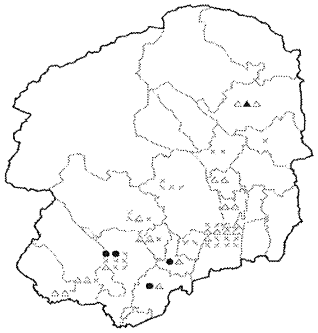



図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

②ハダニ類発生状況(親株、苗)
調査日:7／4, 5, 9, 10



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

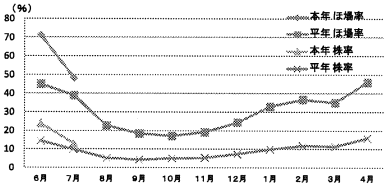



図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

写真1 苗で発生した萎黄病

○今月の技術情報(技術指導班)○（7月）

・現在、うどんこ病の発生がやや目立ちます。この病気は比較的低温で発生するため、盛夏期は一時減少しますが、秋以降の再発を無くすため、夏期にも予防を継続することがポイントです。

・炭疽病の発生も散見されています。昨年、一昨年と梅雨明け後に高温となり、一部地域で多発がありました。本年は7月上旬から気温が高めであり、苗床での被害拡大が無いよう、注意が必要です。炭疽病は発病後の防除は困難なので、発生前から定期的な予防散布や、水の跳ね返りがないかん水を行うなど、発病しにくい管理を行いましょう。 また、被害株は周囲の株も含めて取り除き、摘み取ったランナーや下葉もハウス周辺に野積みにせず、肥料袋等に詰め、空気を排出し口をしっかり閉じて、日当たりのよい野外で「嫌気的発酵処理」により処分し、発生源にならないようにしましょう。

・害虫ではハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類の発生も見られます。育苗期間中に徹底した防除を行い、本圃に持ち込まないようにしましょう。なお、薬剤散布は葉裏へも薬液がかかるよう、ていねいに散布し、防除効果が高まるようにしましょう。

# いちご病害虫情報第3号（8月）

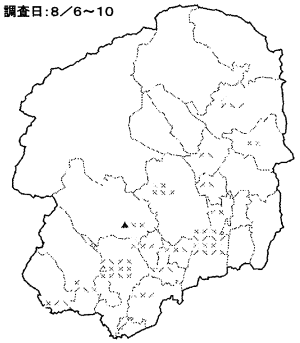
平成24年8月24日
栃木県農業環境指導センター

単位：%

| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 2 | 0 | 2 | 0 | 11 | 29 | 2 | 0 | 0 | 総調査ほ場数：67か所 |
| | 平均値 | 3.0 | 0.0 | 3.0 | 0.0 | 16.4 | 43.3 | 3.0 | 0.0 | 0.0 | 総調査株数：1,725株 |
| | 平年値 | 6.0 | 0.0 | 13.0 | 1.1 | 19.3 | 27.5 | 14.4 | 2.4 | 0.0 | (調査株数：1ほ場25株 |
| | (平均値／平年値)×100 | 50.0 | － | 23.1 | 0.0 | 85.0 | 157.5 | 20.8 | 0.0 | － | |
| | 発生程度 | やや少 | 少 | やや少 | 少 | 平年並 | やや多 | やや少 | 少 | 少 | |
| 株率 | 発生株数 | 0 | 0 | 5 | 0 | 42 | 136 | 3 | 0 | 0 | |
| | 平均値 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 2.4 | 7.9 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | |
| | 平年値 | 0.3 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 3.6 | 6.7 | 0.9 | 0.1 | 0.0 | |
| | (平均値／平年値)×100 | 0.0 | － | 23.1 | － | 66.7 | 117.9 | 22.2 | 0.0 | － | |
| | 発生程度 | 少 | 少 | やや少 | 少 | 平年並 | 平年並 | やや少 | 少 | 少 | |
| 概評 | | やや少 | 少 | やや少 | 少 | 平年並 | やや多 | やや少 | 少 | 少 | |

○今月の病害虫発生状況○
・うどんこ病を始め、病害の発生は少ない状況ですが、一部、炭疽病の発生が見られているほ場があります。
・ハダニ類はやや多い発生となっています。
・本ぼに病害虫を持ち込まないよう注意が必要です。

①うどんこ病発生状況(苗)
調査日：8／6～10



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

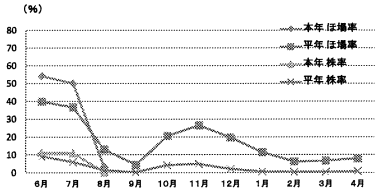
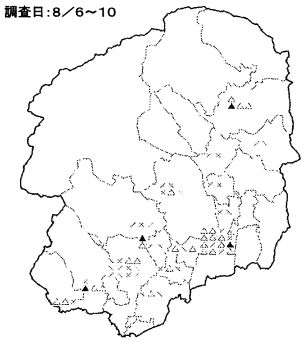



図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

②ハダニ類発生状況(苗)
調査日：8／6～10



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

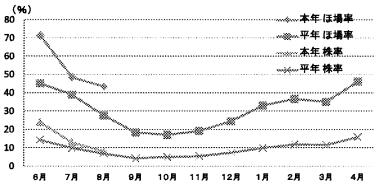



図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

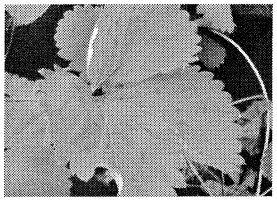


写真1 苗に発生した炭疽病

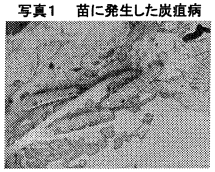


写真2 ハスモンヨトウ幼虫

○今月の技術情報（技術指導班）○（8月）

・先月に引き続き、ハダニ類の発生がやや多い状況です。またアブラムシ類の発生も見られ、今後はハスモンヨトウにも注意する必要があると考えられます。
・炭疽病の発生は今のところやや少ないですが、高温傾向が続いているため、今後急増する可能性もあり、注意が必要です。日常のこまめな観察により病害虫の早期発見に努め、本ぼに持ち込まないよう、育苗床のうちにしっかり防除しましょう。
・例年よりやや早い梅雨明けとその後の高温により、苗の生育の遅れ、充実不足が懸念されます。現在は育苗期の後半になりますが、日照に応じた遮光や、育苗ポットの並べ替え、かん水量の調整などの対策を行い、定植までに、揃いが良く、充実し締まった苗が出来るよう心掛けて下さい。
　また、苗の揃いが悪いと花芽の分化がばらつきます。定植は頂花房の花芽分化をしっかり確認してから行いましょう。

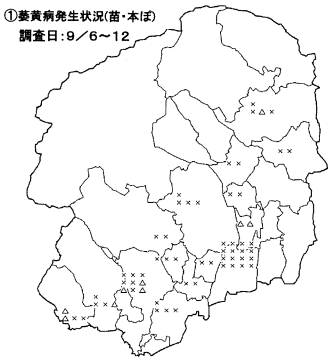
# いちご病害虫情報第4号（9月）

平成24年9月21日
栃木県農業環境指導センター

| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 6 | 0 | 0 | 9 | 7 | 11 | 4 | 9 | 0 | 総調査ほ場数：62か所 |
| | 平均値 | 9.7 | 0.0 | 0.0 | 14.5 | 11.3 | 17.7 | 6.5 | 14.5 | 0.0 | 総調査株数：1,600株 |
| | 平年値 | 5.6 | 0.0 | 4.5 | 0.4 | 6.5 | 20.5 | 9.6 | 12.3 | 0.0 | (調査株数：1ほ場25株 |
| | (平均値／平年値)×100 | 173.2 | － | 0.0 | 3625.0 | 173.8 | 86.3 | 67.7 | 117.9 | － | |
| | 発生程度 | やや多 | 少 | 少 | 多 | やや多 | 平年並 | 平年並 | 平年並 | 少 | |
| 株率 | 発生株数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 42 | 1 | 6 | 0 | |
| | 平均値 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 2.6 | 0.1 | 0.4 | 0.0 | |
| | 平年値 | 0.4 | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 0.9 | 4.6 | 0.6 | 1.0 | 0.0 | |
| | (平均値／平年値)×100 | 0.0 | － | 0.0 | － | 33.3 | 56.5 | 16.7 | 40.0 | － | |
| | 発生程度 | 少 | 少 | 少 | 少 | やや少 | やや少 | 少 | やや少 | 少 | |
| 概評 | | 平年並 | 少 | 少 | やや多 | 平年並 | 平年並 | やや少 | 平年並 | 少 | |

○今月の病害虫発生状況○
・今月は苗と本ぼを調査しました。
・一部のほ場で炭疽病(写真1)、萎黄病(写真2)の発生が散見されています。
・ハスモンヨトウの食害が見られており、今後の発生に注意が必要です。

①萎黄病発生状況(苗・本ぼ)
調査日：9／6～12



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

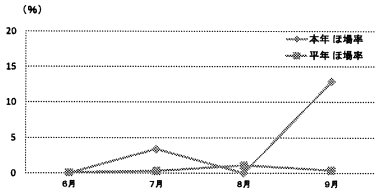



図1 萎黄病発生ほ場率

②ハダニ類発生状況(苗・本ぼ)
調査日：9／6～12

| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

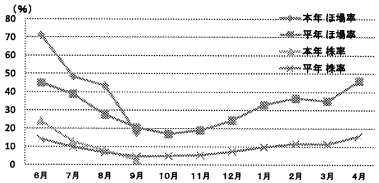



図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

写真1 炭疽病によりしおれた株(矢印)

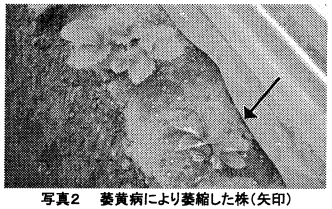


写真2 萎黄病により萎縮した株(矢印)

○今月の技術情報（技術指導班）○（9月）

・いちごの定植は概ね順調に進んでいますが、一部で炭疽病、萎黄病による被害が見られます。またアブラムシ類、ハダニ類の発生も継続しており、ハスモンヨトウによる被害も心配されます。
　今後、気温が高めで推移すると、定植後にこれらの病害虫の被害が拡大する可能性が高いため、早めの防除が必要です。

・定植後は畦内部への根張りを促進するため、活着後のかん水は少量多回数で行うとともに、マルチ張りは出来るだけ遅らせるよう心掛けましょう。

　また、近年は秋期に高温となる年が多く、株の消耗により作柄の低下の要因となっています。積極的な換気や循環扇等の活用により、ハウス内の気温上昇を抑制し、地上部の徒長を防ぎましょう。

# いちご病害虫情報第5号（10月）

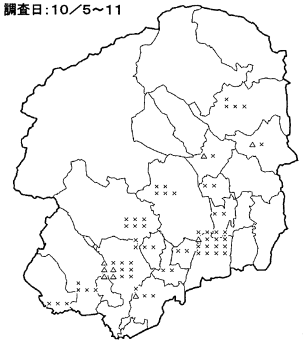
平成24年10月19日
栃木県農業環境指導センター

| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 4 | 0 | 5 | 9 | 18 | 13 | 13 | 18 | 7 |
| | 平均値 | 5.7 | 0.0 | 7.1 | 12.9 | 25.7 | 18.6 | 18.6 | 25.7 | 10.0 |
| | 平年値 | 3.3 | 0.0 | 19.8 | 2.2 | 11.7 | 22.2 | 24.0 | 20.5 | 8.7 |
| | (平均値／平年値)×100 | 172.7 | － | 35.9 | 586.4 | 219.7 | 83.8 | 77.5 | 125.4 | 114.9 |
| | 発生程度 | やや多 | 少 | やや少 | 多 | 多 | 平年並 | 平年並 | 平年並 | 平年並 |
| 株率 | 発生株数 | 0 | 0 | 32 | 1 | 85 | 77 | 15 | 31 | 9 |
| | 平均値 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.1 | 4.9 | 4.4 | 0.9 | 1.8 | 0.5 |
| | 平年値 | 0.2 | 0.0 | 4.0 | 0.1 | 1.4 | 6.3 | 1.8 | 1.8 | 0.8 |
| | (平均値／平年値)×100 | 0.0 | － | 45.0 | 100.0 | 350.0 | 69.8 | 50.0 | 100.0 | 62.5 |
| | 発生程度 | 少 | 少 | やや少 | 平年並 | 多 | 平年並 | やや少 | 平年並 | 平年並 |
| 概評 | | 平年並 | 少 | やや少 | やや多 | 多 | 平年並 | 平年並 | 平年並 | 平年並 |

備考
総調査ほ場数：70か所
総調査株数：1,750株
(調査株数：1ほ場25株

○今月の病害虫発生状況○
・先月に引き続き、萎黄病(写真1)が散見されるほ場が増えています。
・うどんこ病の発生はやや少ない状況ですが、一部早い作型では多く見られます。
・県内全域でアブラムシ類の発生が多く見られます。
・開花が始まるとアザミウマ類(写真2)の発生が増加するので注意してください。

①萎黄病発生状況(本ぼ)
調査日：10／5～11



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

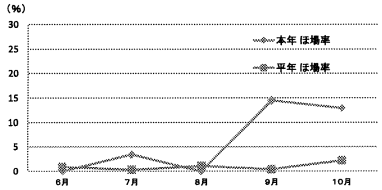



図1　萎黄病発生ほ場率

②ハダニ類発生状況(本ぼ)
調査日：10／5～11

| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

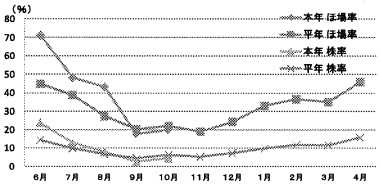



図2　ハダニ類発生ほ場率・株率

写真1　萎黄病発病株

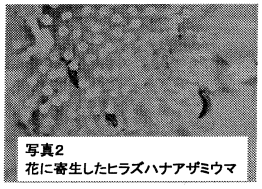


写真2
花に寄生したヒラズハナアザミウマ

○今月の技術情報(技術指導班)○（10月）
・夏の猛暑の影響により、ポット育苗などの花芽分化はやや遅れましたが、10月は日照時間が多く、定植後の生育はほぼ順調のようです。
・育苗期間中から炭疽病・萎黄病の発生が見られましたが、定植後も一部で発生が継続しています。今後気温が高めに推移すると、これらの病害の発生が増加する恐れがあります。本ぽで炭疽病・萎黄病株を見つけた場合は、直ちに抜き取り、処分することが必要です。
・害虫ではアブラムシ類が多く、その他の害虫の発生もみられます。また今後はうどんこ病の発生にも注意が必要です。そのため保温開始までに防除を徹底し、収穫期の発生を抑えることが重要です。
・本年は秋期の気温は高めですが、一時的な気温の低下も見られます。いちごの株の充実や果実の肥大が良くなるよう、ハウス内の気温や湿度の上昇に注意し、こまめな換気と、少量多回数のかん水に努めましょう。

# いちご病害虫情報第6号（11月）

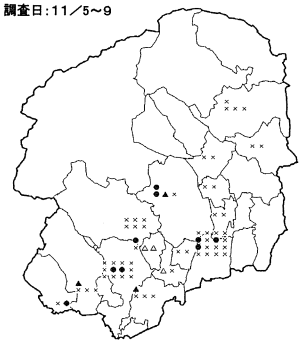
平成24年11月16日
栃木県農業環境指導センター

| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類 | アザミウマ類(花) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 3 | 0 | 15 | 9 | 17 | 18 | 10 | 7 | 18 | 18 |
| | 平均値 | 4.4 | 0.0 | 22.1 | 13.2 | 25.0 | 26.5 | 14.7 | 10.3 | 26.5 | 26.5 |
| | 平年値 | 5.0 | 0.0 | 26.2 | 5.1 | 12.9 | 23.8 | 33.3 | 9.8 | 6.9 | 37.8 |
| | (平均値／平年値)×100 | 88.0 | － | 84.4 | 258.8 | 193.8 | 111.3 | 44.1 | 105.1 | 384.1 | 70.1 |
| | 発生程度 | 平年並 | 少 | 平年並 | 多 | 多 | 平年並 | やや少 | 平年並 | 多 | 平年並 |
| 株率 | 発生株数 | 0 | 0 | 136 | 1 | 120 | 104 | 45 | 9 | 19 | 52 |
| | 平均値 | 0.0 | 0.0 | 8.0 | 0.1 | 7.1 | 6.1 | 2.6 | 0.5 | 1.1 | 3.1 |
| | 平年値 | 0.2 | 0.0 | 5.0 | 0.2 | 2.1 | 7.2 | 3.5 | 0.7 | 0.4 | 2.9 |
| | (平均値／平年値)×100 | 0.0 | － | 160.0 | 50.0 | 338.1 | 84.7 | 74.3 | 71.4 | 275.0 | 106.9 |
| | 発生程度 | 少 | 少 | やや多 | やや少 | 多 | 平年並 | 平年並 | 平年並 | 多 | 平年並 |
| 概評 | | やや少 | 少 | 平年並 | やや多 | 多 | 平年並 | やや少 | 平年並 | やや多 | |

備考
総調査ほ場数：68か所
総調査株数：1,700株
(調査株数：1ほ場25株（調査花数：1ほ場100花））
※アザミウマ類の平年値は過去2年の値

○今月の病害虫発生状況○
・うどんこ病は平年並ですが、一部に多いほ場が見られます。
・先月に続いて萎黄病が散見されます。
・ハダニ類は平年並ですが、一部に多いほ場が見られます。
・開花が始まり、アザミウマ類の発生ほ場が増えてきました。

①うどんこ病発生状況
調査日：11／5～9



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

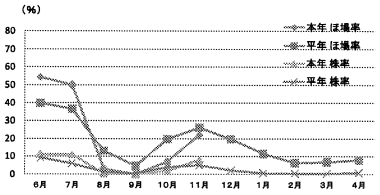
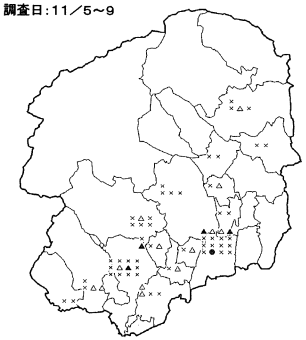



図1　うどんこ病発生ほ場率・株率

②ハダニ類発生状況
調査日：11／5～9



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

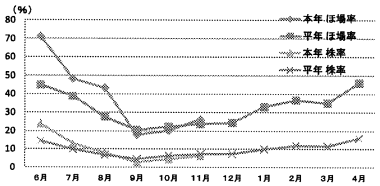



図2　ハダニ類発生ほ場率・株率

写真1　うどんこ病

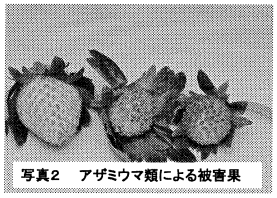


写真2　アザミウマ類による被害果

○今月の技術情報(技術指導班)○（11月）

・いちごの生育は夏期の高温による花芽分化の遅れと、10月後半以降の気温低下によりやや遅れていますが、日照時間は多いため株は充実しています。

・先月に引き続きアブラムシ類の発生が多めです。またアザミウマ類が増加傾向にあります。これらの害虫の防除は収穫が本格化する前に徹底して行い、被害の拡大を防いで下さい。また、わき芽やランナー、古葉のかき取りは早めに行い、防除効果が高まりやすく、病害虫が多発しにくい環境作りにも努めましょう。

・今後は気温の低下や降雨等により低温多湿状態となりやすく、灰色かび病等の発生も懸念されます。ハウス内の適温確保、湿度上昇を防止し、適切な管理を行って下さい。

# いちご病害虫情報第7号（12月）

平成24年12月14日
栃木県農業環境指導センター

単位：%

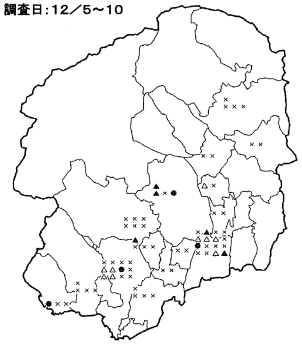
| | | 炭疽病 | 灰色かび病 | うどんこ病 | 萎黄病 | アブラムシ類 | ハダニ類 | コナジラミ類 | ハスモンヨトウ幼虫 | アザミウマ類（花） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ほ場率 | 発生ほ場数 | 4 | 0 | 18 | 8 | 4 | 29 | 15 | 2 | 9 |
| | 平均値 | 5.8 | 0.0 | 26.1 | 11.6 | 5.8 | 42.0 | 21.7 | 2.9 | 13.4 |
| | 平年値 | 3.0 | 1.9 | 21.5 | 4.9 | 8.2 | 29.5 | 40.5 | 4.2 | 21.2 |
| | 平年比（%）×100 | 193.3 | 0.0 | 121.4 | 236.7 | 70.7 | 142.4 | 53.6 | 69.0 | 63.2 |
| | 発生程度 | 多 | 少 | 平年並 | 多 | 平年並 | やや多 | やや少 | 平年並 | 平年並 |
| 株率 | 発生株数 | 0 | 0 | 74 | 1 | 38 | 158 | 85 | 1 | 18 |
| | 平均値 | 0.0 | 0.0 | 4.3 | 0.1 | 2.2 | 9.2 | 4.9 | 0.1 | 0.3 |
| | 平年値 | 0.0 | 0.1 | 2.2 | 0.1 | 1.4 | 9.0 | 6.7 | 0.2 | 0.6 |
| | 平年比（%）×100 | － | 0.0 | 195.5 | 100.0 | 157.1 | 102.2 | 73.1 | 50.0 | 50.0 |
| | 発生程度 | 少 | 少 | 多 | 平年並 | やや多 | 平年並 | 平年並 | やや少 | やや少 |
| 概評 | | 平年並 | 少 | やや多 | やや多 | 平年並 | やや多 | やや少 | 平年並 | 平年並 |

備考

総調査ほ場数：69か所
総調査株数：1,725株
（調査株数：1ほ場25株（調査花数：1ほ場50花（一部100花））
※アザミウマ類の調査は花調査かつ平年値は過去2年の値

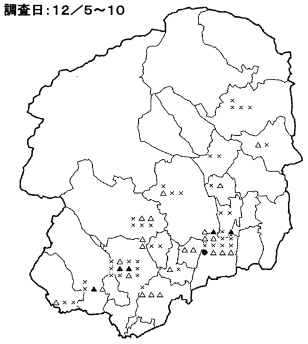
○今月の病害虫発生状況○
・うどんこ病の発生が増加傾向にあり、多発生のほ場もあります。
・炭疽病、萎黄病が散見されます。
・ハダニ類の発生ほ場率が平年を上回り、急増しています。

①うどんこ病発生状況(本ぼ)
調査日：12／5～10



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～10 | 11～25 | 26以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

②ハダニ類発生状況(本ぼ)
調査日：12／5～10



| 程度 | 無 | 少 | 中 | 多・甚 |
|---|---|---|---|---|
| 発生株率(%) | 0 | 1～40 | 40～70 | 71以上 |
| 記号 | × | △ | ▲ | ● |

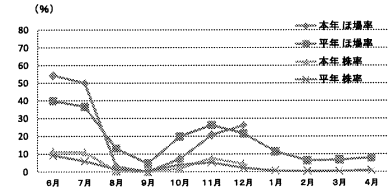



図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

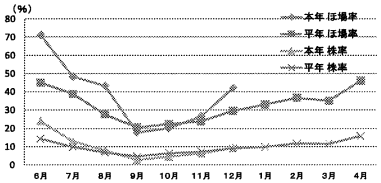



図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

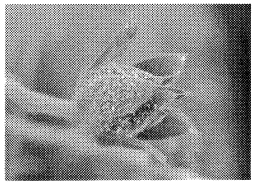


写真1 がくに発生したうどんこ病

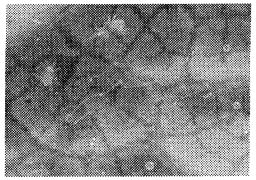


写真2 葉裏のハダニ類と卵

○今月の技術情報（技術指導班）○（12月）

・夏期の高温による花芽分化の遅れと、11月中旬以降の気温低下、日射量の減少によりいちごの生育はやや遅れています。現在うどんこ病の発生が見られますが、今後は灰色かび病などにも注意する必要があります。

・害虫の発生は減少傾向にありますが、ハダニ類がやや多く、アブラムシ類、アザミウマ類等の発生が一部で継続しています。収穫盛期になると防除作業が遅れがちになりますが、春先の気温上昇とともに増加する恐れがありますので、早めの防除を心掛け、年内のうちに発生を出来るだけ少なくしておきましょう。

・今後も低温傾向が継続すると生育の遅れ、収穫量の減少につながる恐れがあります。ハウスの隙間を無くして保温効率を上げるなど温度管理を徹底し、作柄を良好に保ちましょう。